

父の想いを自身の肝に銘じ、新たな道筋を示す



無知に気づく

大学卒業後、取引のある商社にお世話になりました。その後自社に戻り数年がたったある時、いずれ後継する立場にありながらも決意も無ければ知識も無い、そう考えるようになり、自身を駆り立てる何かが芽生えました。友人知人に相談すると、皆さんから日本創造教育研究所を勧められ、起業家養成スクールを受講しました。

起業家養成スクール中に父が他界

起業家養成スクール中に代表取締役社長である父が他界しました。知識も何もない私が学んでいなければ会社は存続していたのだろうか。今があるのは、あの一年の学びが根底にあったからだと言言できます。弟も三年後に起業家養成スクールで学ばせていただきました。兄弟で同じ念^{おも}いを共有し経営できることを何より心強く思っています。

卒業して数年経ち、社員さんから「変わられましたね」と言葉ももらいました。みんな見てくれているのだなと感謝の思いで一杯でした。



起業家養成スクール 第11期生
能勢鋼材株式会社
代表取締役
能勢 孝一様
(大阪府)

承継に対する想い

父親も健在で後継者もそのもとで力を蓄えながら後継していけるそんな他社さんを見ていると、とてもうらやましく思えます。私は突然のハトタッチでしたが、事業承継はいつ起こるか予測不可能です。日頃からいつ承継しても良いように準備をすることが大切です。後継の決意があれば即決断されるのが良いと思います。

起業家養成スクールは、とても学び深いカリキュラムが用意されています。一年間全うしたとき、細いながらも確固たる柱と自信が芽生えてきます。苦楽を共にした仲間、先輩諸兄がたくさんいます。一生の同志ができます。卒業後も志同じくする者が集うOB会「明徳会」を通じて定期的に学ぶ機会があります。起業家精神を共有する仲間と切磋琢磨し、大きな刺激を得ることは自身の財産になっています。

論語の一節が座右の銘

論語にある「三年父の道改めることなく」を自身の肝に銘じ、私自身は父の残した舞台背景、役者を一切改めることなくそのまま尊敬尊重し承継させていただきました。

三年経ち、父の経営理念をベースに自身の理念に改め、会社の行く末を記した経営方針書を社員の皆さんに発表しました。父の想いを再度想い、自身の肝に銘じるには三年、そこから新たな道筋を社内外に示す論語のこの一節は、私の座右の銘になっています。

